



都祭広一議員  
(創 真の会)



## 駅南側の開発に向けた新病院建設を

**問** 国保匠瑳市民病院の建て替えに ついて、基本計画案で示された予算で事業実施や予算確保は問題ないか。また、用地取得を含め地域からのアクセスのための道路整備などの周辺整備も必要ではないか。

**答** 「市長」財源の多くは、補助金と起債で対応する予定である。また、今後作成する立地適正化計画策定時には、関係施策や関連計画との連携を図りながら、道路整備を含め、庁内関係各課及び関係機関等と協議をしていく。

**問** 今回、市民病院の建設候補地が八日市場駅南側と示されたということは、駅南側の再開発をしていくという市長の考えだと理解してよいのか。

**答** 「市長」令和5年度から新たなまちづくりを進めるための立地適正化計画策定に着手することとし、市民病院の移転も含めた周辺環境の整備等について検討を行い、駅南側の開発につなげていきたい。

**問** 旭中央病院との連携も踏まえて、基本構想や基本計画等の修正は考えられるか。

**答** 「市長」旭中央病院との連携については、事務局レベルでの協議を

行っている。今後、両病院が互いの課題やその役割等を踏まえ、具体的な意見交換がされ、医療連携や病床の機能など、基本構想や基本計画案での修正が必要な場合は、改めて議会にも説明をさせていただき、市民の意見も伺って進めていきたい。

## 子育て支援のため国交付金の活用を

**問** 内閣府より実施をされている地域少子化対策重点推進交付金事業は、結婚、妊娠、出産、育児の切れ目ない支援のため、地域独自の先駆的な取組を行う地方公共団体を支援することを目的とした国からの支援金であり、新年度の予算措置の中で、本交付金事業を実施するべきではないか。

**答** 「市長」少子化対策は重要課題であり、新規の取組として、本交付金を活用した結婚新生活応援事業を実施し、新婚世帯を対象とした住宅費や引越越し費用等に対する補助を行っていく。また、本交付金を活用した新たな施策、市独自の施策についても、引き続き検討していきたい。



伊東一成議員



## 銚子連絡道路の周辺整備

**問** 銚子連絡道路（仮称）八日市場インターチェンジの出入口付近へ「道の駅」を整備してはどうか。

**答** 「市長」現在、市では当該インターチェンジ周辺について産業用地整備のための事業化想定区域の選定を進めている。議員からの提案については、今後の参考とさせていただき、まずは新たな企業誘致に向けた整備の検討を行っていきたい。

## 市職員の定員管理について

**問** 休職者が多く、職員の定員から人数が欠けた状態で行政運営されているのではないかと危惧している。職員の定員はどのようなルールに基づき定められているのか。

**答** 「総務課長」市では、匠瑳市職員定数条例により職員の定数を規定しており、病院事業の職員を除き409人としている。また、この定数とは別に、最少の経費で最大のサービス



将来にわたって安定的に提供できるように定員の適正化を目指し、匠瑳市定員適正化計画に基づく定員管理を行っている。

令和4年4月1日時点の対象職員数は289人で、311人の目標に対して22人の常勤職員が不足しているが、現在、各課と調整の上、会計年度任用職員や再任用短時間勤務職員、任期付職員を活用することにより対応している状況である。

## 子育て支援課の設置を

**問** 子育て支援施策を充実させるため子育て支援課を設置してはどうか。

**答** 「市長」伴走型相談支援を踏まえた各課連携体制の整備や令和6年度の改正児童福祉法の施行に伴うことも家庭センター設置への対応等、今後の子育て支援に係る組織のあり方等について、現在、庁内組織の匠瑳市子育て支援対策委員会において検討を行っているところである。

## 独自性のある事業は

**問** 市が実施する事業については近隣市町のまねばかりで独自性が見られない。匠瑳市独自に取り組んでいる事業は、どのようなものがあるか。

**答** 「市長」地域おこし協力隊員による地域の魅力発掘と情報発信などを行っているほか、本年1月には国の構造改革特別区域として、どぶろく（濁酒）の製造を認める特区に認定された。職員一人一人がアイデアを出し合い、また各課が連携協力した取組を通じて匠瑳市ならではの独自性のある事業に取り組んでいきたい。